

第3回 安中市都市計画マスタープラン策定委員会
第2回 安中市立地適正化計画 策定委員会 議事概要

■日時及び場所

日時：令和6年6月25日（火）14:00～16:30

場所：安中市役所 旧庁舎3階 303会議室

■出席者

区分	出欠	所属等	氏名(敬称略)	備考
委員長	○	高崎経済大学地域政策学部	長野 博一	
委員	○	一般社団法人群馬建築士会安中支部代表	三好 建正	
委員	○	一般社団法人群馬県宅地建物取引業協会 安中支部代表	武井 正臣	
委員	○	一般社団法人安中市医師会代表	本多 真	
委員	×	一般社団法人碓氷川森林組合	上原 又樹	
委員	○	安中市商工会代表	静 朋人	
委員	○	安中市松井田商工会代表	吉田 利博	
委員	○	安中市区長会代表（安中）	三宅 勉	
委員	○	安中市区長会代表（松井田）	和田 元男	
委員	○	東日本旅客鉄道株式会社高崎支社代表	近藤 隆俊	
委員	×	一般社団法人群馬県バス協会代表	佐藤 俊也	
委員	×	ぐんま地域防災アドバイザー	金井 弘恵	
委員	○	安中市景観審議会代表	杉浦 榮	
委員	○	安中市文化財保護審議会代表	神宮 善彦	
委員	○	国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所計画課長	伊藤 光宏	
委員	○	群馬県県土整備部都市計画課長	小島 康弘	
委員	○	群馬県県土整備部安中土木事務所次長	岸 正幸	
事務局	○	まちづくり部	都市計画課	
NKUS	○	都市再生部	都市交通課	

■次第

1. 開会
2. 委員長挨拶
3. 議事録署名人の指名
4. 議題
 - (1) 安中市都市計画マスタープラン
 - ・全体構想（素案）
 - ・分野別基本方針（案）
 - ・地域別構想（骨子）
 - (2) 安中市立地適正化計画
 - ・方向性の整理
5. その他
6. 閉会

■配布資料

- 座席表、次第、委員名簿
- (1) 安中市都市計画マスタープラン
 - 資料1_全体構想素案（たたき台）
 - 資料2_分野別基本方針案
 - 資料3_地域別構想骨子
 - 参考資料1_地域別市民意向調査結果
 - (2) 安中市立地適正化計画
 - 資料1_立地適正化計画会議資料

1. 開会

2. 委員長挨拶

3. 議事録署名人指名

- ・三宅 勉 委員
- ・和田 元男 委員

4. 議題

(1) 安中市都市計画マスタープラン

・全体構想（素案）

- ・質疑なし

・分野別基本方針（案）

（委員）

- ・【都市拠点整備の基本方針】安中市役所・安中駅周辺の基本方針に「流通業務系の産業機能の立地誘導」とあるが、流通業務系の企業とはどのようなイメージか。

（事務局）

- ・基本方針は現行計画から更新できておらず、改定計画では記載を削除する。現行計画策定時は、自動車整備工場等を想定していた。今後は食品や雑貨店等の商業施設の立地誘導を予定している。市役所跡地の利用も検討中であり、決まり次第情報共有をする。

（委員長）

- ・商業施設の立地誘導を検討するにあたり、来客の交通手段や規模感を事前に調査することが重要となる。

（委員）

- ・新駅整備にあたり、安中市やJR東日本が利益を得られるのかが重要となる。新駅の利用者を確保するために、商業施設の誘導に伴い、駐車場や駐輪場の整備、デマンド交通拠点としての整備を検討し、信越本線の乗降客数増加を目指してほしい。

（事務局）

- ・新駅の整備方針は市長の公約通りである。整備場所は確定していないが、西毛広域幹線道路と信越本線が交差するあたりを予定している。駐車場の整備や公共交通の拠点としての整備、商業施設の誘致を検討している。

（委員長）

- ・都市機能や居住の誘導を図る中でパークアンドライドのような取組が必要となるかもしれない。車の利用を増加させるのか、減少させるのかで必要な駐車場の規模も変わるため、計画策定の中で検討してほしい。

（委員）

- ・信越本線の電車の本数が少ない。新駅整備に伴い利用者数は増加するなら、本数を増加させ

るべきではないか。

- ・安中榛名駅周辺の今後のまちづくりの方向性を伺いたい。以前は商業施設誘致の広告等があったが、現在では撤去されておりコンビニも撤退している。

(事務局)

- ・以前と比べ普通列車の本数は大きくは変化していないが、特急や貨物が廃止された。市からも JR 東日本に本数の増加を要請している。また、信越本線の駅周辺を活性化させることで利用者数の増加を目指したいと考えており、現在は新駅、磯部駅周辺の温泉街の活性化、横川駅周辺の道の駅の整備と 3 駅で取組を進めている。
- ・安中榛名駅は、以前は商業施設の誘致を検討していたが、大幅な人口減少が予想される現在、誘致は現実的に難しいのが実状である。今後は、公共交通機関で他拠点と結び、移動しやすい環境整備を図る。

(委員)

- ・コロナ前と後では乗降客数は 88.3%に減少しており、負債も年々増加している。乗降客数を定期的に調査しながら本数の検討を行う。新駅の整備に関しては、引き続き市と協議していく。

(委員長)

- ・利便性向上等により、現在車で生活している住民にどのように公共交通を利用してもらうかが重要となる。引き続き検討を進めてほしい。

(委員)

- ・新駅整備により、安中駅の利用者が新駅に移動し、安中駅は衰退するのではないか。
- ・信越本線南部に商業施設の立地等を期待しているが、開発予定はないのか。駅周辺に商業施設が立地すれば、磯部や松井田の住民が鉄道を利用してくるかもしれない。
- ・西毛広域幹線道路の整備により、景観阻害や地域分断が問題となるおそれがある。

(委員長)

- ・景観阻害や地域分断に関して、事務局で次回の委員会までに検討していただきたい。

(委員)

- ・今後も人口減少や少子化が進行することを考えると、安中駅を残したまま新駅を整備するのは難しい。現在、車中心で生活している人が公共交通を利用する仕組みづくりが重要となる。
- ・今後、整備を進めていく中で、整備スケジュールや乗降客数増加の想定等の定量的な情報を提示する必要がある。

(事務局)

- ・新駅整備に伴い、他駅から利用者を奪う形になってはだめといわれている事例は県内でも聞いている。本市においては、新駅利用者は純増を目指しており、今年度の別の業務で新駅の整備位置の検討や利用需要等の調査を行い、結果を踏まえて新駅整備の検討を進めていく。

(委員長)

- ・モビリティマネジメントを転入者だけでなく、現在お住まいの市民も対象に行う必要がある。策定中の地域公共交通計画の中で検討してほしい。

(委員)

- ・新駅整備に必要な費用は、市または JR 東日本のどちらが負担するのか。

(事務局)

- ・市が負担する。

・地域別構想（骨子）

（委員）

- ・（全体構想等含め）人口減少や少子高齢化の進行を前提とした目標・方針になっていないのが残念である。人口を増やすことは難しいかもしれないが、人口を維持していく考え方と、そのために必要な目標や方針が必要である。

（事務局）

- ・人口減少を止める書きぶりに修正する。

（委員）

- ・少子化問題に対応するには、流山市のようなイメージがあると良い。安中市の魅力をアピールすることが重要である。

（委員長）

- ・どのように市外にシティプロモーションしていくか考える必要がある。

（２）安中市立地適正化計画

・方向性の整理

（委員）

- ・立地適正化計画の基本概念は、説明いただいた通りだが、第三者として現状の計画をみた場合、様々意見があると思う。立地適正化計画は、これから人口が減少していく中で、都市機能を誘導しないとまちを維持・管理できないという考えが前提にある。
- ・実際に誘導施策を打つ上で、既に住んでいる人を考えると、赤くなっている原市周辺に人口を集積させるのが有利だが、原市周辺ではなく新駅周辺に集積させるためには、相当思い切った施策を打たなければいけない。現在、乗降客数が3,000人かつ、ほとんどが学生となる。2050年に市内人口3万人と考えると、一般の市民のうち10人に1人が毎日鉄道を利用しないといけない。

（委員長）

- ・他の施策と一緒にする。都市機能誘導エリアの中に学校を誘致、市として小中高一貫の学校を作る、近隣の市町村が利用客として新駅を使うなど、他の施策と連動しながらこの計画を考える必要がある。

（委員）

- ・人口を増やすために工業団地を誘致、優良企業を増やしてほしい。

（委員）

- ・人口減少の中、新駅の利用形態について、いかに通勤客を増やすかが重要。新駅周辺への企業誘致は効果的だが、現状を見ると、夕方に高崎方面に渋滞が出ている状態である。市内で働く人々が、高崎方面ではなく、安中市内に住んでもらうためにどういう施策が打てるのか、考えてほしい。

5. その他

なし

6. 閉会